

令和5年度WWL成果報告会

WWLコンソーシアム構築支援事業

長野県における先取り履修(AP)の取組

(AP:Advanced Placement)

令和6年2月27日

管理機関:長野県教育委員会

カリキュラム開発拠点校:長野県上田高等学校

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題

1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築

「探究的な学び」

主体的・対話的で
深い学び



「個別最適な学び」

生徒個々に合った
自律的な学び

長野県が目指す新しい学び

学校内外の多様で
異年齢の人々との

「協働的な学び」

個々の生徒と結び
付き現実社会と
一体となった

「リアルな学び」

感動や発見に
あふれた

「ワクワクする学び」

1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築

信州版WWL 育てたい生徒像



 NAGANO WWL AL NETWORK KEY COMPETENCIES

ALネットワークで育成する生徒像

「社会の創造者」に関する資質・能力

混沌とした社会の中にある課題を見抜いて、テーマを設定し、チームとして共同しつ、対立やジレンマを乗り越えて解をみつけ、アクションを通じて新しい価値や新しい社会を主体的に想像していくことができる

- 1 課題発見力**
世の中の事象から課題を見つけ出し、自分ごととして設定することができる
- 2 協働力**
人と協働してともに活動することができる
- 3 解をつくり出す力**
試行錯誤を繰り返す中から最適な解をつくり出すことができる
- 4 アクションを自ら起こす力**
問題解決のために、アクションを起こすことができる
- 5 新しい価値や社会を創造する力**
課題解決を通じて、新しい価値や社会を創し、世の中をよくしようという志を持っている

「自分らしく生きる力」を培う資質・能力

社会（世界）との関わりの中で、「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力

- 6 自らの行動を振り返る力、レジリエンス**
自らの取組を評価し、失敗しても試行錯誤を繰り返し、努力し続けることができる
- 7 人生を構想する力**
課題に取り組む中で、自分の人生や生き方を構想することができる

グローバルマインドを育む資質・能力

信州に根ざした豊かなアイデンティティと世界に通じる広い視野、資質・能力

- 8 地域に根ざしたアイデンティティ**
地域と積極的に関わることができる
- 9 グローバルなマインドセット**
世界を見る視野を持ち、他者の多様な考えや価値観を理解し、受け入れることができる
- 10 世界に通じる教養**
幅広い知識と教養を身につけ、生涯にわたって学び続けることができる
- 11 世界に通じるコミュニケーション力**
自分の考えを書いたり話したりすることで伝え、人の考えを書物や対話を通して理解し、恐れず対話することができる

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)**
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題

2 コンソーシアム構築に向けた研究成果 (令和2年度～令和5年度)

信州WWL Highlights データで見る3年間 2020～2022

構想名 「SDGs未来都市長野」から世界へ繋げる信州版ALネットワーク

ALネットワークの形成 組織強化・拡充

拠点校
長野県上田高等学校
 H27～R1 スーパーグローバルハイスクール (SGH)指定校
共同実施校
松本県ヶ丘高等学校
 進学単位制がキリム入実校校

県内連携校
15校
 県内連携校 (R4年度) 県定前期年度の中学校から拡大

篠ノ井高等学校
 屋代高等学校
 伊那北高等学校
 松本深志高等学校
 須坂高等学校
 諏訪二葉高等学校
 飯田風越高等学校

探究的な学びのプラットフォームの構築と産官学連携

未来の学校
6校
 1 スーパー探究校
 2 信州グローバルハイスクール
 3 国際プログラム研究校
 4 高度産業教育推進校
 5 少人数学習研究
 6 善太リーダー育成
 WWL連携校

JIBUN発旅するラボ
49人
 R3～R4参加者数
 長野県教育委員会
 長野県立大学 KDDI株式会社
 長野県中小企業家同友会

KDDI共創プロジェクト
8プロジェクト
 R2～R4実施
 これまでのプロジェクト例
 「空き家活用プロジェクト」
 「IoTを活用した畜産対策」
 「高校生がつくるバーチャルZoo」

マイプロ*長野県Summit
 高校生学びのフォーラム長野
 過去3年間の参加状況
 R2 **21校 71名**
 R3 **24校 91名**
 R4 **28校 91名**

探究Frontiers講習
 これまでの受講者数
 R3 **13名***
 R4 **7名**

学びの改革カンファレンス
 R4参加者数
72名 32校
 R5は生徒の参加も含め、規模を拡大して実施

※各校が「活用」している2021年度に比べて、今年度は「活用」している校数が増加し、参加者数も増加している。また、今年度は「活用」している校数が増加し、参加者数も増加している。

カリキュラム開発 管理機関の取組

指導・評価研究
 ALネットワーク
 ・教育活動の目的の共有
 ・生徒の学びの成果の可視化
 ・探究的な学びの伴走者としての指標
 などの参考資料を作成

AP：大学教育先取り履修
AP 連携大学
信州大学
 ・科目等履修生として受講
 ・(R4.9月～3月)
 ・大学の単位認定可
 ・現在15名受講
 ・R5は教育学部等の8科目で新たに募集を開始

長野県立大学
 ・聴講生として夏期集中講座「コミュニケーションデザイン各論」を受講(R4～)
 ・拠点校から3名受講
 ・拠点校の単位として認定

海外留学・進学促進のための取組

信州つばさプロジェクト*
県企画コース (R4実施コース各15名)
 インターシップコース(渡航先:カンボジア)
 SDGs探究コース(渡航先:マレーシア)
個人留学 (募集生徒数20程度)
 個人で計画した留学に係る経費に県が一定額を支援

海外進学留学講座
4回開催/年 (県内2会場)
 海外進学を志した大学生による海外の多様な学びと自らの受験体験を語り、生徒の主体的な進路選択を支援。
海外での学び講座
 海外での学びや仕事などの経験を持つ講師の知見に触れる機会を高校生に提供する講座。

*長野県独自の高校生のための留学支援制度。R2・R3年度はコロナにより中止。R4年度から再開。

信州WWL Highlights 3年間の取組 2020～2022

高校生国際会議

テーマ: Considering Multiple Perspectives & Finding Solutions - Our Pledge to Take Action for a sustainable Life -

参加者数
187名
 令和4年度現在

国際会議開催までの歩み
 令和2年 北陸新幹線サミット ※オンライン開催 **51名16校**
 令和3年 北陸新幹線サミット ※参集と対面のハイブリット開催 **51名14校**
 海外生5名

プログラム内容
 基調講演
 分科会(発表・討論)
 共同宣言採択
 分科会:エンカド消費、人材、教育、環境、異国、水衛生

生徒実行委員会
 ALネットワーク連携校から募集
 生徒主体の運営
53名 8校
 参加生徒数 参加校数

データで見る3年間

拠点校の実施する課題研究発表会の参加者数

自由な発想を持つ生徒の増加 (拠点校)

発信力の向上 (拠点校)

「問いを立てる力」の向上 (拠点校)

「大いに高まった」「高まった」と回答した生徒の割合

来年度以降の予定

- 管理機関はこれまでのプログラムを精査しながらも、基本的にはこの3年間で構築したプログラムを継続。(特に海外研修、対面による生徒、教員間の交流)
- 拠点校はこれまで開発したカリキュラムをさらに深化させながら、学校全体への浸透及び他校への提供を積極的に行う。
- ALネットワークの各学校の取組を共有し、生徒同士の交流による「学び合い」の機会を充実させるために、オンラインやオンデマンド配信を活用していく。

「学び」のプラットフォーム

- ・ 令和5年度はカリキュラム開発研究期間を1年間延長。
- ・ 構築した「学びのプラットフォーム」の充実、全県の高校への成果の普及と自走に向けた取組を継続中。

2 コンソーシアム構築に向けた研究成果 (令和2年度～令和5年度)

信州WWL Highlights データで見る3年間 2020～2022

構想名 「SDGs未来都市長野」から世界へ繋げる信州版ALネットワーク

ALネットワークの形成 組織強化・拡充

拠点校
長野県上田高等学校
H21～R1 スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校
共同実施校
松本県ヶ丘高等学校
長野県県立高校から3校が実施校

県内連携校
15校
県内連携校 (R4年現在)
前年度年度の9校から拡大

長野高等学校 篠ノ井高等学校
上田染谷丘高等学校 厩田高等学校
野沢北高等学校 伊那北高等学校
飯田高等学校 松本深志高等学校
長野西高等学校 須坂高等学校
伊那弥生ヶ丘高等学校 諏訪二葉高等学校
諏訪清陵高等学校 飯田風越高等学校
長野日本大学高等学校

探究的な学びのプラットフォームの構築と産官学連携

未来の学校
6校
1 スーパー探究校
2 信州グローバルハイスクール
3 国際プログラム研究校
4 高度産業教育推進校
5 少人数学習研究
6 骨太リーダー育成

先導的・先端的な研究開発にむき合った種目の実証校を指定。県高校教育をけん引する新たな学びの場、仕組みを構築する。

JIBUN発案するラボ
49人
R3～R4参加生徒数
長野県教育委員会
長野県立大学、KDDI株式会社、
長野県中小企業振興協会

高校生だけでなく、企業経営者や大学生等の年長の他者との交流を図り、自らの思いを自ら考え実現を通して、自分が向き合い、何をしたいのかを明らかにする。

KDDI共創プロジェクト
8プロジェクト
R2～R4実施
これまでのプロジェクト例
「空き活用プロジェクト」
「IoTを活用した教室対策」
「高校生がつくるバーチャルZoo」

学校単位では実施が難しい主体の「特色ある取組」を、KDDIと連携し、共に創り上げること(共創)によりの実現を目指す。

マイプロ「長野県Summit
高校生学びのフォーラム長野
過去3年間の参加状況
R2 21校 71名
R3 24校 91名
R4 28校 91名

* 県校生が「多様性」をテーマに探究し、未来に向けて「アクション」を行っていきのプロジェクト。企業・高校生・マイプロジェクト・ワールドの地域サポーター(県大会)として実施。

探究Frontiers講習
これまでの受講者数
R3 13名*
R4 7名

『探究』について探究する教員向け研修会。「教科横断的な学び」における「探究」のあり方について授業。

学びの改革カンファレンス
R4参加者数
72名32校

R3は生徒の参加も含め、規模を拡大して実施

AP：大学教育先取り履修

指導・評価研究
ALネットワーク
・教育活動の目的の共有
・生徒の学びの成果の可視化
・探究的な学びの促進者としての指導
などの参考資料を作成

信州大学
・科目等履修生として受講 (R4.9月～3月)
・大学の単位認定可
・現在15名受講
・R5は教育学部等の8科目で新たに募集を開始
*教育学部では「学習科学専攻」及び「情報通信活用」の2講座の募集を開始

長野県立大学
・聴講生として夏期履修 (R4.9月～3月)
「コミュニケーション各論」を受講 (R4～)
・現在15名受講
・R5は県立から3名受講
・県立校の単位として認定

海外留学・進学促進のための取組

信州つばさプロジェクト*
県企画コース (R4実施コース 各15名)
インターシップコース (選抜先: カンボジア)
SDGs探究コース (選抜先: マレーシア)
個人留学 (専業主産後20程度)
個人で計画した留学に係る経費により県が一定額を支援

海外進学留学講座
4回開催/年 (県内2会場)
海外進学を果した大学生による海外の多様な学びと自らの受給体験を語り、生徒の主体的な進路選択を支援。
海外での学び講座
海外での学びや仕事などの経験を持つ講師の知見に触れる機会を高校生に提供する講座。

*長野県独自の高校生のための留学支援制度。R2～R3年度はコロナにより中止。R4年度から再開。

大学教育先取り履修 Advanced Placement

- 令和2年度に県内の大学を訪問し、県内の高校生を対象に大学教育先取り履修の実現に向けて協議を進める。
- 令和4年度から**県内2つの大学**で高校生の先取り履修、授業聴講の取組始まる。
- 令和5年度は信州大学では高校生対象先取り履修を**継続**。
- 長野県立大学については、大学側と開講可能な講座の調整がつかず、令和5年度の実施は**見送り**。

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり**
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題

3 大学先取り履修実現までの道のり

高大連携事業プラットフォーム

2018年～

県内の高等学校での探究的な学びや卓越した学びを進めるため、長野県教育委員会が県民文化部高等教育振興係と県内各大学を結ぶ「長野県高大連携コンソーシアム」を組み、**高大連携の各事業をプラットフォーム化し、すべての公立高校生が参加できるシステムの構築を推進。**

大学との連携による県内の高校生対象講座 (これまでの取組例)

発信力ゼミ、サイエンス体験プログラム、海外からの講師による英語によるレクチャー、
「探究的な学び」の研修会(教員対象)、探究のプロセス講座(生徒対象)

3 大学先取り履修実現までの道のり

令和2年度
(1年目)

県内大学と高校との連携について以下3点の検討を依頼。

【依頼内容】

- ① 高校生の課題研究へのアドバイス
- ② APプログラム(先取り履修)の導入(→R3試行、R4導入を提案)
- ③ 高校生対象講座の実施(オンライン、出前講座含む)



令和3年度
(2年目)

県内2つの大学(信州大学と長野県立大学)とAP導入への具体的な協議を推進。

【検討内容】

- ① 参加方法 (対面、オンライン、オンデマンド、集中講義 など)
- ② 時期/時間 (平日、休日、長期休業中 など)
- ③ 単位修得 (履修生、聴講生、大学の単位認定の可否、費用 など)



令和4年度
(3年目)

信州大学、長野県立大学の2つの大学で先取り履修等の実施

【信州大学の場合】 ※単位認定あり

R4後期から県内高校生先取り履修を開始

【長野県立大学の場合】 ※単位認定なし

夏期集中講座(4日間)に高校生が聴講生として参加

3 大学先取り履修実現までの道のり



訪問先での懇談から（令和2年度当時）

高校生対象講座を春休みに実施している。
単発的な講座としては、**出前授業、出前実習**があるので
利用してほしい。

単位認定のためには、15週(90分)授業を受けて、テストで相応の成績を取ることが必要。大学生も受講する中で、新たに高校生を受け入れていくことは、**担当する教員の負担**も大きい。

既の実施している出前講座や講師派遣のスキーム
を用いて連携していくことは可能。

APという話になると、生徒の扱い(科目等履修生、聴講生など)や出席の管理、トラブル対応など課題は多いが、**本当の意味での高大連携になる可能性がある**。

連携協定を締結していると協力しやすい。

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組**
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題

4 本県における大学先取り履修の取組

信州大学

(令和4～5年度)

- ・ 長野県内の高等学校に在籍する生徒が、信州大学の特定の授業を履修可能な**科目等履修生**(先取り履修生)を募集。
- ・ 履修した科目について、所定の成績を修めた場合、**信州大学の単位を授与**。
- ・ **同大学に入学した場合**、修得単位を卒業単位に算入できる場合もある。

長野県立大学

(令和4年度)

- ・ 長野県教育委員会、長野県立大学、KDDI株式会社の3者による**包括連携協定を締結**(R2)
- ・ 管理機関の長野県教育委員会と事業連携機関の長野県立大学との**連携**による「高度な学び」実践講座を実施。
- ・ 長野県立大学の夏期集中講座に**聴講生**としてALネットワーク校の高校生を受入れ。

4 信州大学 長野県内高校生による科目等履修生(先取り履修生)

目的

長野県内の中核人材の育成を推進するという観点から、本学(=信州大学)への入学を視野に入れている長野県内高校生に対して、本学の授業科目を履修する機会を提供することにより、学びの複線化・多様性を高めるとともに、本学に対する理解を深めてもらうことを目的とする。

(募集要項より)

履修資格

次の各号に挙げるすべての要件を満たしている長野県内高校生

- (1) 在籍する高等学校長からの推薦があること。
- (2) その他、履修対象科目毎の履修要件

申請書類

- (1) 長野県内高校生科目等履修申請書
→生徒が記入し、担任教員のサインをもらう
- (2) 長野県内高校生科目等履修生推薦書
→学校長による

申請 手続

- (1) 希望する生徒は、「履修申請書」を在籍する高等学校の校長を経て、信州大学に提出。
- (2) 学校長は、生徒からの「履修申請書」とともに、「推薦書」を信州大学に郵送で提出。

→大学は申請書類について選考の上、履修の可否を決定し、在籍する高等学校の学校長を通じて結果を通知。

4 信州大学 長野県内高校生による科目等履修生(先取り履修生)

履修科目

R4後期～R5後期までに開講された科目

科目名	曜日・時間	授業形態
古典文学史I、II	火曜・5時限	講義
STEAMものづくり入門I,II	集中・不定期	演習(オンライン・対面)
ミクロ経済学入門	火曜・3時限	講義(e-Learning)
素朴な集合論ゼミ	月曜・5時限	演習
繊維科学の基礎	金曜・4時限	講義
データサイエンスリテラシー	集中・不定期	講義

R4後期・R5前期まで
総計36名の高校生の
履修登録あり

受講料

1単位あたり
4,700円

学習科学概論

「学び方」に関する教育学・心理学を扱う。オンラインビデオと対面の組合せ、高校生が受講しやすい時間を設定。

情報機器活用論

ICT活用を中心に、小中学生の情報活用能力の育成について考える。対面とオンラインで学ぶ。

教育学部が教員志望の高校生対象に開校した科目

4 長野県立大学との連携による「高度な学び」実践講座

目的

信州WWLコンソーシアム構築支援事業における高度な学びのプラットフォーム構築の一環として、事業連携機関である公立大学法人長野県立大学と協働し、大学の授業を高校生が聴講する機会を設ける。これにより、高校の枠を超えた、意欲ある個々の生徒の学びの場の実現と大学の専門知による高校の学びの質を向上させる。

(実施要項より)

募集対象 及び申込

- (1) カリキュラム開発拠点校、共同実施校及び連携校に在籍する生徒4～5名程度を募集。
- (2) 所定の申込用紙に「受講希望理由」等を記入の上、在籍する学校を通して管理機関へ申込み。

聴講した 科目の扱い

本講座は、高校生を**聴講生**として受け入れる。

聴講した高校生に大学での受講科目の単位修得を認めるものではないが、**在籍校の単位として認定できるものとする。**

主催

長野県教育委員会(管理機関) 公立学校法人長野県立大学

申請 手続

聴講は無料

ただし、オンライン参加にかかる接続機器や回線接続に関する一切の経費、通信費、大学までの交通費は参加者の自己負担

5 長野県立大学との連携による「高度な学び」実践講座

開講講座

令和4年度の取組

科目：コミュニティ・デザイン(各論I)

学部：グローバルマネジメント学部

期間：令和4年7月31日(日)、8月5日(金)、6日(土)及び9日(火) 4日間

※ 7月31日(日)はオンライン授業、その他は対面授業(ハイブリッド型)

参加者：カリキュラム開発拠点校(上田高校)から3年生1名、2年生2名 計3名

大学の夏期集中講座
を高校生が受講

講座概要

「コミュニティ・デザイン(各論I)」とは？

- ・ ソーシャルな課題を、人々のつながりや関係性に着目し、自分ごとに引き付け、解決へとアプローチする「コミュニティデザイン」的な思考力を身につける。
- ・ 地域の現場で活躍する講師による講義や大学生とグループワークや街歩きを通じて多様なフィールドとコミュニティデザインの実例を知る。

5 長野県立大学との連携による「高度な学び」実践講座

講義の様子

信州 WML コンソーシアム構築支援事業 長野県立大学との連携による「高度な学び」実践講座 学習の記録	
令和4年7月31日(日) 8時5分(金) 6日(土) 9日(水)	
4日目 (対面授業) 令和4年8月9日(土) 8時30分~15時	【12】発表準備 (内容) 学んだこと・感想・生まれた問いなど
令和4年7月27日(水) 14時~15時	【13】発表と意見交換 内容) んだこと・感想・生まれた問いなど
年 組 事前学習	・講座について ・シラバスの確認 ・Miro ・事前学習課題
MY GOAL	
コメント	確認印

講座終了後、高校へ提出。「学校外における学修にかかる単位」として高校で単位認定。



高校が作成した「学習の記録」ポートフォリオ

大学生とのグループワーク

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子**
- 6 成果と課題

5 参加した生徒の様子（信州大学） 生徒アンケートより

【対象生徒】 カリキュラム開発拠点校(上田高校)に在籍し、今年度先取り履修科目を受講した生徒3名

【履修科目】 データサイエンスリテラシー、繊維科学の基礎

受講した理由は？

- ・ 信州大学に進学を希望しているため。
- ・ 大学の授業を受講してみたかったため。
- ・ 授業内容に興味があったため。
- ・ 高校の先生に勧められたため。



信州大学への進学については？

- ・ 将来のビジョンが明確に定まり、かなり意欲が高まった。
- ・ 授業内容はハードではあったが、充実した学習ができた。毎回の授業後、心地よく感じたことで、進学への意欲が高まった。
- ・ オンライン授業だったので、対面の様子がわからず、気持ちはあまり変わらない。



5 参加した生徒の様子（信州大学） 生徒アンケートより

受講して良かったことは？

- ・ 受講した講座の内容が、現在高校で受けている情報の授業とリンクするものが多く、高校の授業への理解も深まった。
- ・ 大学の授業を早めに体験できた。
- ・ 授業の雰囲気や大学の大きさを体感できた。



受講中大変だったことは？

- ・ 特にない。
- ・ 小テストで資料の詳細について問うものがあり大変だったが、何度も資料を読み込むことで解決できた。
- ・ 動画が見られない時があった。



5 参加した生徒の様子（長野県立大学） 授業レポートより

【対象生徒】 カリキュラム開発拠点校 生徒3名

【聴講科目】 コミュニティデザイン(各論I) オンライン、対面、フィールドワークを伴うグループワーク

グループワークでの気づきは？

他のグループの発表を聞く機会がたくさんあり、その度に「自分だったらどうするか」について考えた。今回の授業では、今までよりも少し『**自分事**』として考えられるようになったと思う。

大学生と関わる貴重な機会だったので、**新しい視点や考え方、そのプロセスを吸収していけるよう取り組んだ**。「そんな見方があったのか」と気づかされることが多々あり、授業が進むにつれ、**自分の物事の見方も少しずつではありながらも変わっていった**と思う。

4日間を通しての感想は？



県立大生は起業している人や、プロジェクトを起こしている人がかなりいると同じグループの大学生から教えてもらった。実際にアクションを起こして、それがその時だけで終わらず今も続いているのがすごいと思った。

この講座に参加して、一番良かったことは、自分でも話し合いに積極的に参加できて、「頑張れば自分から話せる」という自信が付いたことだ。積極的に話し合いに参加する楽しさを知ることができたので、これからは自信を持っていきたい。

目次

- 1 長野県が目指す「新しい学び」と「信州版WWLコンソーシアム」の構築
- 2 コンソーシアム構築に向けた研究成果(令和2年度～令和5年度)
- 3 大学先取り履修の実現までの道のり
- 4 本県における大学先取り履修の取組
- 5 参加した生徒の様子
- 6 成果と課題**

先取り履修と生徒の進路選択

令和4年度

信州大学を受講した当時の2年生4名のうち2名が、現在同大学への進学を希望しており、うち1名は学校推薦型選抜で合格。

長野県立大学を受講した当時の3年生1名が同大学へ進学。

令和5年度

信州大学を受講した3年生1名が同大学に学校推薦型選抜で合格。

拠点校から

- 大学で先取り履修が単位認定された場合、本校でも「**学校外における学修にかかる単位**」として認定している。
- 受講生の中にはもともと大学や講義に高い関心を持つ生徒がおり、受講後に**一層の関心の高まりや高校での学習の充実を実感**している。
- オンラインで受講が可能であるため、**通学の時間や距離の負担が軽減**され、生徒の参加が容易になっている。
- 「大学の授業を体験してみたい」という生徒にとっては、**オンラインでは物足りなさを感じる**こともある。

管理機関から

- 先取り履修を持続可能なものにしていくためには、大学と高校生の**双方にとってメリット**がある(Win-Winな関係である)ことが大切。



- より多くの希望する高校生にとって**履修しやすい環境づくり**が必要。

(例) 高校の教育課程編成の工夫、オンラインとオフラインの両方の良さを組み合わせた講義スタイルなど



- **大学生と一緒に学ぶ**こと自体が高校生にとってとても刺激的。

(例) 身近なロールモデルとしての憧れ、同世代だけの対話からは得られない、新しい視点やアイデアの獲得





Thank you for your attention !

管理機関：長野県教育委員会

カリキュラム開発拠点校：長野県上田高等学校